

トラック輸送情報（平成21年2月分）

平成21年5月28日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、久島 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

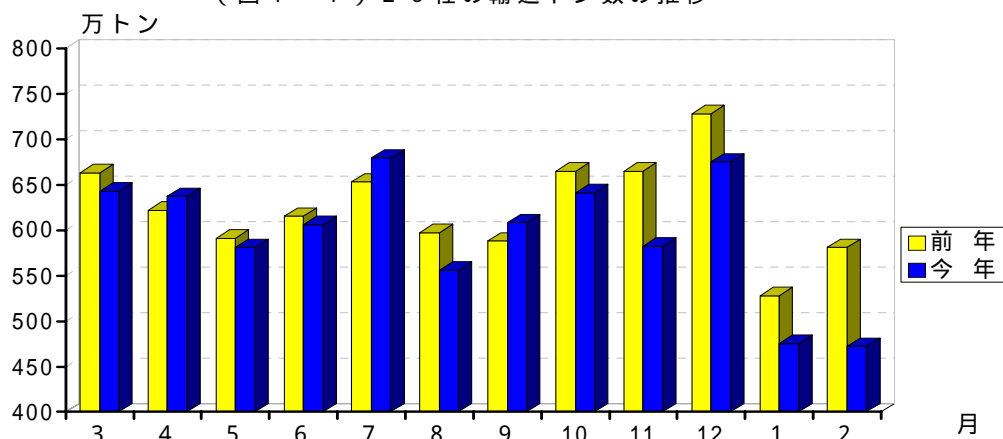
調査対象26社の本月の輸送量は、4,717,739トンで、前月と比べ総輸送量が約3万トン減少したため、前月比99.3%（季節調整済み94.4%）となり、前年同月との比較では、約110万トン減少したため、前年同月比81.2%の実績であった。

なお、平均稼働日数は22.4日で、前月と比べ0.1日の増加、前年同月と比べ1.0日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、210,613トンで、前月と比べ約2千トン減少したため、前月比98.9%となり、前年同月との比較では、約3万8千トン減少したため、前年同月比84.8%の実績であった。

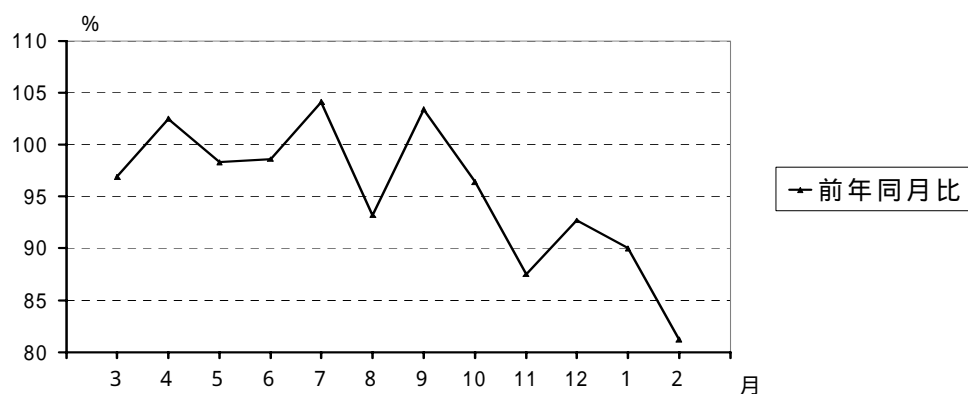
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



(2) 宅配便の概況

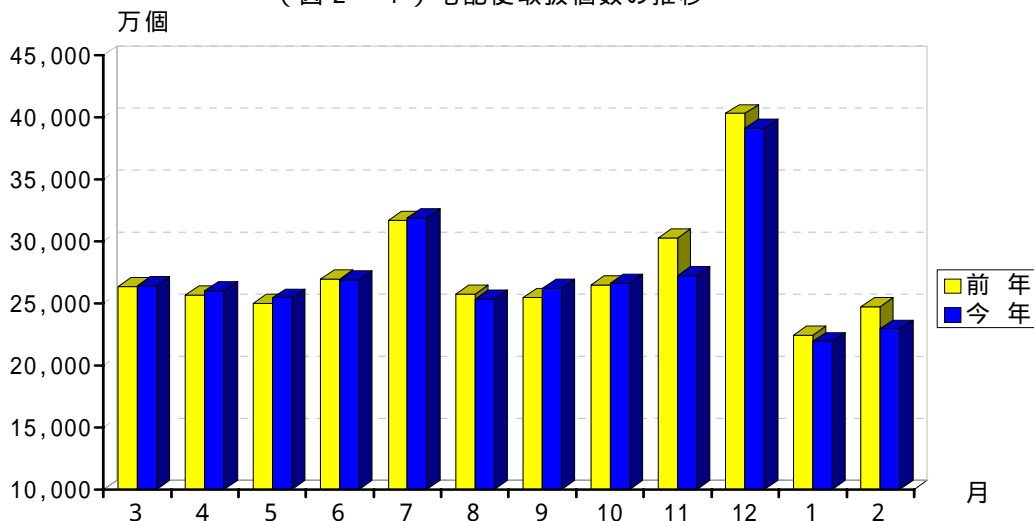
調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、229,458 千個で、前月と比べ 約 1,025 万個増加したため、前月比 104.7%(季節調整済み 100.7%)となり、前年同月との比較では、約 1,800 万個減少したため、前年同月比 92.7%の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

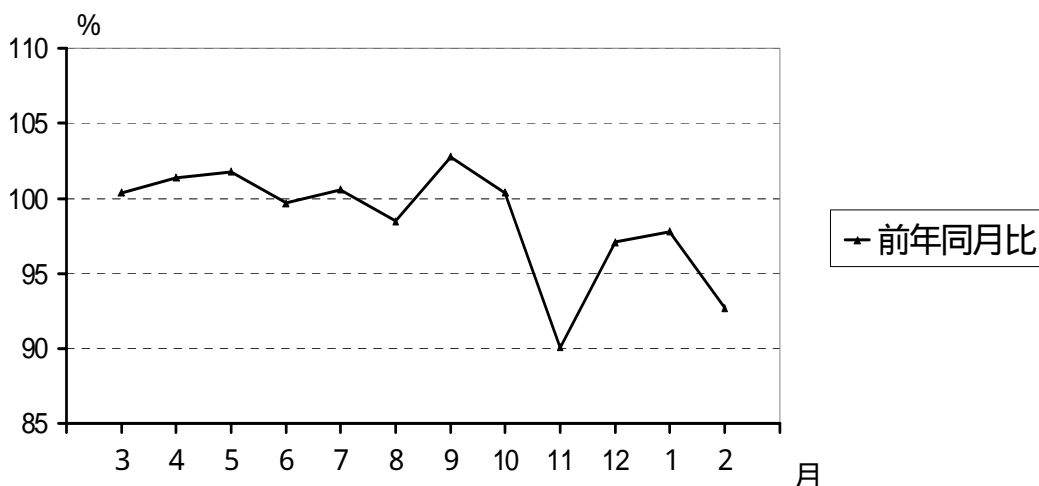
注)平成20年4月から宅配便輸送については調査対象が1社増え、20社となった。

対前年同月比並びに対前月比は、20社ベースで比較している。

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数はほぼ横ばいであるものの、全般的に輸送量は若干減少した。減少要因としては、いくつかの品目で工場・生産地からの貨物減等がみられたほか、「その他(宅配便・百貨店配送品)」では、季節的需要減による減少もみられた。一方、「農水産品」、「化学工業品」、「食料工業品」では、工場・生産地からの貨物増等による増加もみられる。地域的には、「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」、「日用品」、「その他(宅配便・百貨店配送品)」が東京、神奈川、関東を中心に減少した一方で、「農水産品」が東北、関東、北陸信越、中部地方、大阪、中国で、「化学工業品」が神奈川、関東で、「食料工業品」で関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、福岡でそれぞれ増加した。

前年同月と比べると、主に不況に伴う工場・生産地からの貨物減等により、全ての品目で輸送量が減少している。地域的には、「農水産品」、「食料工業品」が東北及び関東で減少したほか、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「日用品」、「その他(宅配便・百貨店配送品)」では、ほぼ全国的に減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	1	12	3	野菜、青果物	東北、関東、北陸信越、中部地方、大阪、中国	4	
	金属製品	1	1	12	6	その他の金属製品	東京、神奈川、北陸信越、中部地方、近畿地方	4, 7	
	機械	1		13	5	1	機械部品	東北、神奈川、関東、北陸信越、中部地方、大阪、近畿	4, 7
	化学工業品	1	4	11	5	1	合成樹脂	神奈川、関東	4, 7
	繊維工業品	1	1	15	4	1	織物	関東、中部地方	4
	食料工業品	1	4	11	4		飲料、その他の食料工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、福岡	4, 7
	日用品	1	3	11	6	1	書籍・印刷物、文具	関東、近畿	4
	その他	1	1	11	7	1	宅配便	東京、神奈川、関東、全国	8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2		10	2	3	野菜	東北、関東	4
	金属製品			8	5	6	工具	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 9
	機械	1		6	7	5	その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 9
	化学工業品			5	10	6	塗料、合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 9
	繊維工業品			9	7	5	織物	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	食料工業品		1	11	5	2	飲料、その他の食料工業品	東北、関東	4, 7
	日用品			6	10	5	書籍・印刷物、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州、全国	4, 5, 7, 9
	その他			5	13	3	宅配便、百貨店配送品	関東地方、北陸信越、大阪、中国、全国	2, 4, 9

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 780 社 / 調査対象事業者数 1,093 社）の輸送量は、前月比 100.1%、前年同月比 87.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	100.1%	101.6%	99.7%	104.4%	103.5%	95.1%	94.9%	100.4%	99.8%	98.6%	116.6%
前年同月比	87.0%	92.0%	88.4%	86.6%	86.2%	76.1%	83.8%	83.7%	84.5%	88.7%	120.0%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、対前月比 101.6%、対前年同月比 92.0%であった。品目別には、工事の関係等から「砂利・砂・石材」等の輸送量が増加しているほか、排雪を要因とする「廃棄物」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「その他の農産品」、「木材」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降は横ばいか若干上昇傾向にあると予想される。
東北	本月の輸送は、対前月比 99.7%、対前年同月比 88.4%であった。品目別には、不況の影響、工場・生産地からの貨物減等により「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」、「セメント」、「その他の製造工業品」、「その他」等の輸送量が減少した。一方、工場・生産地からの貨物増等により「砂利・砂・石材」、「食料工業品」等の輸送量が増加している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
関東	本月の輸送は、対前月比 104.4%、対前年同月比は 86.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「機械」、「化学肥料」等の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「その他の製造工業品」の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
北陸信越	本月の輸送は、対前月比 103.5%、対前年同月比は 86.2%であった。品目別には、季節的需要増等により「砂利・砂・石材」、「セメント」等の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横ばいと予想される。
中部	本月の輸送は、対前月比 95.1%、対前年同月比は 76.1%であった。管内の全ての県で対前年同月比 2 桁のマイナスとなったことから、対前年同月比は 23.9%の大幅な減少となっている。品目別には、不況の影響等により「その他」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「その他の製造工業品」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
近畿	本月の輸送は、対前月比 94.9%、対前年同月比は 83.8%であった。品目別には、不況の影響等により「機械」、「化学薬品」等の輸送量に減少がみられたほか、季節的需要減等により「食料工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
中国	本月の輸送は、対前月比 100.4%、対前年同月比は 83.7%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」、「鉄鋼」、「化学薬品」、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は若干上昇傾向が見込めるものの、以降は減少傾向と予想される。
四国	本月の輸送は、対前月比 99.8%、対前年同月比は 84.5%であった。品目別には、不況の影響等により「化学薬品」、「紙・パルプ」の輸送量が減少した。全体としては、前月を若干下回っているが、今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にあると予想される。
九州	本月の輸送は、対前月比 98.6%、対前年同月比は 88.7%であった。品目別には、不況の影響等により「金属製品」、「機械」、「その他の石油製品」、「その他の化学工業品」、「食料工業品」等の輸送量に減少がみられたほか、工場・生産地からの貨物減、季節的需要減等により「野菜・果物」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
沖縄	本月の輸送は、対前月比 116.6%、対前年同月比は 120.0%であった。品目別には、「穀物」、「水産品」、「木材」、「金属製品」、「取り合わせ品」の輸送量が増加した一方で、不況の影響等により「金属くず」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にあると予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増
1. 穀物	増		2					1		1	1	5
	減		1		1							2
2. 野菜・果物	増		1							2		3
	減	1			1					4		6
3. その他の農産品	増	2								1		3
	減	2	1			1			1			5
4. 畜産品	増											
	減	1								1		2
5. 水産品	増	1				1				1	1	4
	減	2	1					1	1			5
6. 木材	増	2									1	3
	減	5			2			4	1	1		13
7. 薪炭	増											
	減		1									1
8. 石炭	増		1									1
	減	1	1									2
9. 金属鉱物	増											
	減	2		1				1		1		5
10. 砂利・砂・石材	増	5	3		3			1		3		15
	減	2			1	1				2		6
11. 工業用非金属鉱物	増		1					1				2
	減									1		1
12. 鉄鋼	増	1						1	1	1		4
	減	1	2		2			4	1	2		12
13. 非鉄金属	増											
	減											
14. 金属製品	増	1	1		1						2	5
	減		2		1	2	4		1	4		14
15. 機械	増	1		3		1		2		3		10
	減		2	1		4	4	5		6		22
16. セメント	増	2			3	1	1			2		9
	減		2		1			1		2		6
17. その他の窯業品	増		1			1				1		3
	減							1				1

品目	運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
	増	減											
18. 揮発油	増		1								1		2
	減		1	1		1				1			4
19. その他の石油製品	増		1										1
	減		1			3	1		2	1	2		10
20. コークス・ その他の石炭製品	増												
	減					1							1
21. 化学薬品	増												
	減			1			1	2	2	1			7
22. 化学肥料	増			1	2	1							4
	減												
23. その他の化学工業品	増			1									1
	減						2	1	4	1	2		10
24. 紙・パルプ	増				1			1	2	1			5
	減		2		1		1	1	4	2	2		13
25. 繊維工業品	増												
	減								1	1			2
26. 食料工業品	増		1	5				1	4		1		12
	減		2		1			5	3	1	3		15
27. 日用品	増		1		1			1	1		2		6
	減		5				1	2	1		1		10
28. その他の製造工業品	増			1				3	1	2	2		9
	減			2	3	1	2	2	5	1			16
29. 金属くず	増												
	減											1	1
30. その他のくずもの	増												
	減												
31. 動植物性飼・肥料	増		1	1	1	1					1		5
	減				1								1
32. 廃棄物	増		12						1				13
	減		6						1				7
33. 輸送用容器	増			1							1		2
	減		1			1				1			3
34. 取り合せ品	増				1	1			2			1	5
	減			1			1		1		1	1	5
35. その他	増				3	2		3	3				11
	減			4	2	3	7	5	2		4		27